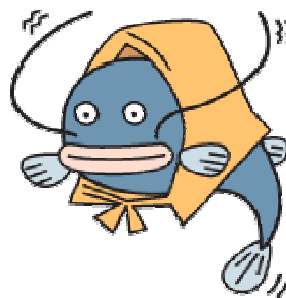


緊急地震速報 なまずきん

マンスリー レポート
2008年2月号



発行元 株式会社 ハレックス



～ 「地震動予報」業務 ～

(株)ハレックス、気象庁より許可される

平成20年2月18日、(株)ハレックスは、「地震動予報」業務を行うことについて気象庁より許可されました。

気象業務法の一部を改正する法律（平成19年法律第115号）が成立し、同年11月21日公布、同年12月1日施行され、気象庁以外の者が、地震動の予報の業務を行おうとする場合は、気象庁長官の許可を受けなければならなくなったことに伴い申請していたところ許可されたものです。

以下、地震動の予報及び警報に関して、気象庁のサイトより抜粋、紹介します。

● 法律の概要

1. 気象庁による地震動の予報及び警報の実施

気象庁は、震源付近の初期微動に関する観測結果に基づき、発生した断層運動による地震動（以下では単に「地震動」といいます。）の一般の利用に適合する予報及び警報をしなければなりません。

※地震動の予報とは、地震の最初のわずかな揺れから各地の揺れ（地震動）を予想し発表することであり、地震の発生の予想は含みません。

2. 気象庁以外の者に対する地震動の予報の業務の許可

気象庁以外の者が地震動の予報の業務を行おうとする場合は、気象庁長官の許可を受けなければなりません。

3. 気象庁以外の者による地震動の警報の制限

気象庁以外の者は、地震動の警報をしてはなりません。

● 緊急地震速報と地震動の予報及び警報との関係

このたびの気象業務法の一部改正により、緊急地震速報は、地震動の予報及び警報に位置づけられることになりました。ます。

地震動の予報及び警報については以下の区

分で運用します。その名称については、「緊急地震速報」の名称で一般に認知されつつあることを踏まえ、以下のとおり引き続きこの名称を用いて発表します。

地震動の予報及び警報の区分

	内容
地震動警報	最大震度5弱以上の揺れが予想されたときに、強い揺れが予想される地域に対し地震動により重大な災害が起こるおそれのある旨を警告して発表するもの【注】
地震動予報	最大震度3以上又はマグニチュード3.5以上等と予想されたときに発表するもの

【注】「一般向け緊急地震速報」並びに「高度利用者向け緊急地震速報」のうち2箇所以上のデータにより最大震度が5弱以上と予想された速報及びその後の一連の速報

地震動の予報及び警報の名称について

気象庁における発表に当たっては今後とも「緊急地震速報」の名称を用いることとし、警報と予報の区別については次のとおりとします。

	用いる名称
地震動警報	「緊急地震速報(警報)」又は「緊急地震速報」
地震動予報	「緊急地震速報(予報)」

〜〜〜 なまずきんの働き (2008年1月) 〜〜〜

【発信数概要】

緊急地震速報（予報）が 31 個の地震に対し発信され、総数は 164 通でした。平成 18 年 8 月に先行運用が始まってからの月平均データと比較しますと、地震数、発信数とも、平成 19 年 2 月と同数で最も少ない月でした。

また、推定震度 4 以上と報じた地震数は 2 個と前月に引き続き少なめでした。

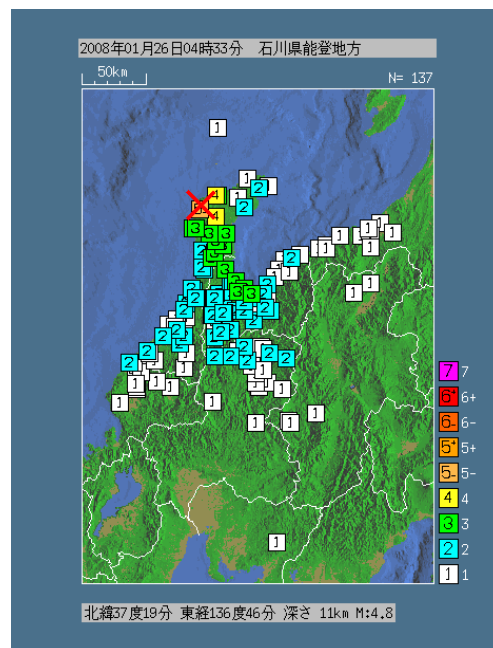
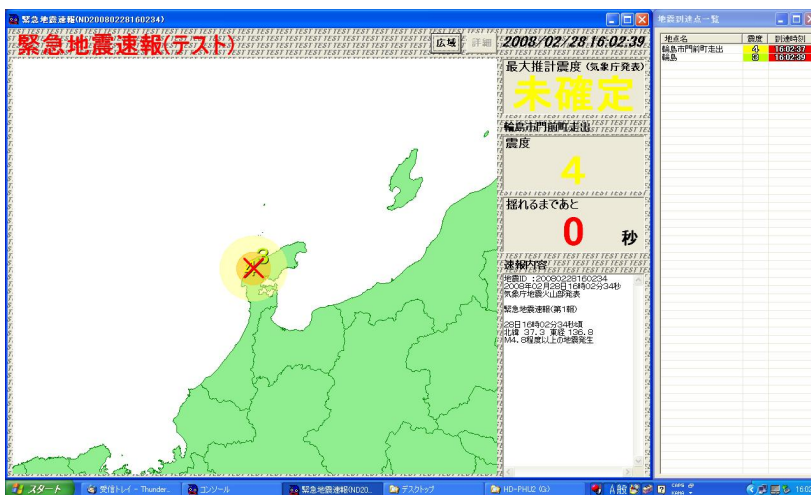
【石川県能登地方の地震】

26日04時33分25.3秒、石川県能登地方にM4.8の地震が発生し、緊急地震速報（予報）が第10報まで発信されました。最も近い観測点で

地震波が検知されたのは地震発生の約8秒後で、第1報はその約5秒後に発表されましたが、最大震度5弱となった輪島市門前町のほか、震度4となった地域には、間に合いませんでした。

この地震は、平成19年3月25日に発生した「平成19年（2007年）能登半島地震」の余震と考えられています。

なお、緊急地震速報（警報）については震度5弱以上を予測した場合に発表することになっていますが、今回の地震で気象庁は最大震度4と予測したため発表しておりません。



“なまずきん”の表示画面
震源直上の輪島市門前町走出での震度は4と推定され（観測値は震度5弱だった）、すでに主要動が到達することを示している。

石川県能登地方の地震の震度分布図
(気象庁より)

震度4以上を発信または観測した地震(2008年1月)

日	時分	地域名	深さ (km)	マグニチュード	速報発信数	速報最大震度 (最終報震度)	観測最大震度 (地点数)
26	04:33	石川県能登地方	11	M4.3	10	4(4)	5-(1)
27	10:33	静岡県西部	17	M4.1	7	4(4)	3(1)

3月の被害地震

発生日	発生年	北緯(度)	東経(度)	M	地震名または震央地名	死者数	最大震度
3日	昭和8年(1933年)	39.2	144.5	8.1	三陸沖地震	3064	5 **
4日	昭和27年(1952年)	41.8	144.1	8.2	十勝沖地震	33	5 *
7日	明治32年(1899年)	34.1	136.1	7	紀和地震	7	5 **
7日	昭和2年(1927年)	35.6	134.9	7.3	北丹後地震	2925	6 **
7日	昭和27年(1952年)	36.5	136.2	6.5	大聖寺沖地震	7	4 *
14日	明治5年(1872年)	35.2	132.1	7.1	浜田地震	555	5 ~***
15日	大正3年(1914年)	39.5	140.4	7.1	仙北地震	324	6 **
18日	大正4年(1915年)	42.1	143.6	7	十勝沖	2	5 **
18日	昭和62年(1987年)	32.0	132.1	6.6	宮崎県沖	1	5 *
20日	昭和14年(1939年)	32.3	131.9	6.5	宮崎県沖	1	4 **
20日	平成17年(2005年)	33.7	130.2	7.0	福岡県西方沖	1	6弱*
24日	平成13年(2001年)	34.1	132.7	6.4	芸予地震	2	6弱
25日	平成19年(2007年)	37.3	137.2	6.6	能登半島沖地震	1	6強

明治以降に死者・行方不明者を出した地震・津波および気象庁が命名した地震

最大震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級。【平成8年(1996年以降)ただし、
 * 0から7の8階級 【昭和24年(1949年)～平成8年(1966年)】
 ** 0から6の7階級 【明治31年(1898年)～昭和23年(1948年)】
 *** 微、弱、強、烈の4段階 【明治17年(1884年)～明治30年(1907年)】で、
 それぞれ現在の震度の1、2～3、4、5以上に相当

1. 十勝沖地震

北海道南東沖で発生した太平洋プレート沈み込みに伴うプレート間巨大地震で、十勝地方その他の泥炭地に被害が集中する一方、震源に近い広尾町では震度5を観測しましたが、ほとんど被害はありませんでした釧路市など北海道太平洋岸で、学校など木造の公共建物に被害が目立ちました。当時は、釧路、帯広、浦河で震度5を観測していますが、“なまずきん”によるシミュレーションでも広尾で震度5強、釧路、帯広などで震度5弱となることが示されています。

震源は100km余南方の海域のため、主要動が釧路市まで到達するまでには30秒以上の余裕があるようです。

2. 北丹後地震

京都府の丹後地方に発生した内陸型地震で、被害は丹後半島の頸部が最も激しく、家屋の倒壊、火事による家屋の全焼が多くありました。この地震で、郷村断層、山田断層という互いに直行する2つの断層が地表に現れました。

当時の気象官署での最大震度は、宮津、豊岡の震度6でしたが、“なまずきん”でも、最大震度が6弱となることが示されています。

いわゆる「直下型地震」ですので、震源に近い地域には主要動は数秒で到達してしまい、緊急地震速報は間に合いません。

